

2025年12月9日（火）

老球の細道 898号

高校バスケットボール新人地区大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今大会は個人的な事情で決勝までくまなく試合を見ることができなくて残念だった。特に男子のこの世代はミニバス時代において県大会を制覇、及び上位を会津地区が独占していた黄金世代である。あれから5年、ミニバス、中学を経てユース世代の完成期と言われる高校時代（U-18）でどれだけ成長したか楽しみであった。また女子に関しても、ミニバスクリニック、トップアスリート講習会などで教えさせてもらった選手たちが「ビフォー、アフター」でどれだけ進化、成長したのかを見ることは私の老後の楽しみの一つである。

今大会はレベルの差が2極化しているが、上位、下位チーム共にターンオーバーの多さ、シュート力の確率が低く、県北、県南など他地区の強豪校レベルにはまだまだ追いつけないのではと実感した。しかし、まだ新人大会である。始まったばかりなのでこれからが正念場。ファンダメンタルの再確認、ディフェンスプレッシャーの中でもミスしないことを強化する「ディアドバンテージドリル」、そして状況判断を養成する「デシジョンメイク」ドリルなどを日々の練習で継続したい。頭を使わない「機械的ドリル」の反復やゲームドリルの繰り返しではチームはいつまでも変わらない。

今大会でまたびっくりしたのは女子選手の減少のみならず、男子チームの減少も目についたことである。特に会津学鳳高校、喜多方高校などの比較的規模の大きな伝統校が単独でチーム編成ができなくて合同チームで参加していた。いつの間にこんなになってしまったんだ。

私が現役教員時代、バスケット部の顧問を持たなかったのは相双地区の新地高校に勤務した時だけである。残りの勤務校全てで幸運にもバスケット部の顧問を務めることができた。その指導歴中でたった1回だけ部員が1名しかいなくなり、新人大会から半年間公式戦に出場できなかったことがあった。会津高校から坂下高校（現会津西陵高校）に転勤した年である。この時に暇になったのをチャンスに、現在のトップアスリート講習会のルーツ「坂下トップアスリート講習会」を実施した。

おかげさまで翌年から上杉君をはじめ会津地区全域から無名の未完の利器たちが坂下高校に参集してくれるようになった。部員の減少で悩む指導者の皆様には、是非現状に甘んじることなく部員の勧誘、増加にアクションを起こしてほしい。

ミニの時代は少子化といえども、わが会津地区は何とか男女ともに15チーム位はずっとキープしているが、中学、高校になるにつれて徐々に選手数が減少している。特に女子の減少が顕著である。このまま進むとわが会津地区はチーム強化のみならずチーム数の減少が進みバスケット過疎地域になりかねない。

ミニの選手達が将来、中学、クラブ、高校とバスケットを継続するために、どこのチームでもレベルの高い、楽しいバスケットを指導してくれる魅力的な受け皿チームがたくさんあることを願わずにはいられない。協会技術委員会を中心に抜本的改革を期待したい。